

つくるう 伸ばそう 鹿沼の文化

かぬま文化

No.179

発行人 鹿沼市文化協会
発行責任者 会長 鈴木 貢
編集委員会 委員長 小林 夏江
印刷所 晃南印刷(株)

第46回鹿沼市民文化祭開幕式報告

鹿沼市民文化祭開幕式アトラクション・鹿沼市文化協会第14回文化セミナー「下司愉宇起うたのつどい」

秋の気配を感じる澄み切った青空のもと、9月28日(土)に、かぬまケーブルテレビ(市民文化センター)の小ホールにおいて、第46回鹿沼市民文化祭の開幕式を開催しました。

秋の気配を感じる澄み切った青空のもと、9月28日(土)に、かぬまケーブルテレビ(市民文化センター)の小ホールにおいて、第46回鹿沼市民文化祭の開幕式を開催しました。

開幕式後のアトラクション「下司愉宇起うたのつどい」は、とても楽しみにしていたお客さまが、沢山ご来場されました。

下司愉宇起氏は、歌



松井正一 鹿沼市長



湯澤英之 県議会議員



谷中恵子 市議会議長



高橋進 副会長・下司愉宇起氏



文化祭開幕式式典

手、指揮者、作詞家、音楽プロデューサーと多くの肩書があり、「とちぎ未来大使」としても活躍されています。また、「かぬま童謡の会わらべっこ」の常任講師として、3年以上ご指導されています。歌手としては、童謡からシャンソン・オペラ・ポップスと幅広いレパートリーをお持ちです。「下司愉宇起うたのつどい」では、下司氏の軽快なトークに魅了され、



会場の様子



サイン会

美しい声に酔いしれました。また、「わらべっこ」の皆さまとの共演では、会場の皆さんと手を動かしながら一緒に歌う曲もあり、舞台と客席が一体となり大いに盛り上がった楽しいイベントになりました。

来場者からは「茶道部会の方々による美味しい呈茶をいただき、素晴らしい歌も聞けて、楽しい一日を過ごすことができました」とうれしい言葉をいただきました。すべてのスタッフの皆さまのご尽力に心より感謝いたします。

事務局 福田由子



下司愉宇起うたのつどい



「わらべっこ」との共演

第46回鹿沼市民文化祭開幕式報告	1
市民文化祭書道展のこれから	2
絵手紙部会開催	2
鹿沼マンガイラスト協会	3

ギャラリーフェスティバル写真部会	3
お知らせ	3
令和6年度視察研修旅行報告	4
編集後記	4

ギャラリーフェスティバルと 市民文化祭書道展のこれから

ギャラリーフェスティバル実行委員長 書道部会長 板橋 和子

第46回鹿沼市民文化祭書道展が、10月18日から20日まで開催されました。大勢のご来場い、年々参加者が減少



ギャラリーフェスティバル 書道部会

してきました。若い世代の参加者が必要ということになり、今回より、小学生から高校生まで参加可能にしました。しかし、周知度はまだまだのため、出品者42人中、学生・生徒は3人のみでした。しかし、貴重な初めの一步だったことでしよう。また、今年、初のギャラリーフェスティバルで、鹿沼市書道連盟会長の塚原秀巖先生が講師になり、参加者による、ハガキに漢字一文字の制作作品を模造紙に貼りました。その作品は、今回の市民文化祭書道展会場にも展示し、PRに一役買いました。

これからも、多くの方に市民文化祭書道展に出品していただき、日本の伝統文化の一つである書道を気軽に楽しんでもいただくことを切に願っています。

ギャラリーフェスティバル絵手紙部会開催

絵手紙鹿友会 会長 高橋 進

昨年開かれた一回目の文芸フェスティバルに続き、ギャラリー部門の書道・絵手紙・マンガイラスト・写真の4部会で、8月24日から二日間に行われたフェスティバルを開催することができました。

昨年の例も参考にしながらも、手探りで何回も会議を重ねました。それぞれの部門の展示と体験コーナーを設け、他の部会の方にも関心を持ってもらえる、よい機会になりました。

ら鹿沼の賑わいを創る試みが提唱され、鹿沼市長も最初から最後まで熱心に聴かれていました。

絵手紙部会のブースは、展示・体験イベントとも、大変好評でした。いつかやってみたいという人がいました。即入会という人がいたが、いなかっただのが残念でした。

来場者の87%が60代以上で、若い人達にギャラリー文化について、いかに関心を持ってもらうかが、これからの課題です。文化・芸術では財布は膨ら

一般来場者も、色々な活動が観られ、体験もできて、将来やってみたいと言う方もいらつしました。

ワークシヨップの「アートフラッグ作り」もたくさんの方に楽しんでいただきました。「マンガ・アニメによるまちおこしについて」鹿沼はジブリの聖地？」と題した特別講話は、新しい視点か

来場者の87%が60代以上で、若い人達にギャラリー文化について、いかに関心を持ってもらうかが、これからの課題です。文化・芸術では財布は膨ら



ギャラリーフェスティバル 絵手紙部会

まないけど、ドキドキワクワクして胸が膨らみ、人生が豊かになります。

今回は都合で参加いただけなかった絵画部会でしたが、次回は参加いただいで、部門間の親睦も深まり、より多くの人を惹きつける催しにしていきたいと念じています。

マンガ・アニメの魅力を発信

鹿沼マンガ・イラスト協会事務局長 福田 純一

当協会は、市内のマンガ・イラスト愛好者で構成され、市民文化祭マンガ・イラスト展の企画運営や、会員交流会、オリジナルキャラクター作成などの活動を行っています。今年は文化協会ギャラリー部門による「ギャラリ―

当日は会員の作品展示のほか、来場者が自由にイラスト等を執筆する事ができる「落書きコーナー」を設けるなどの工夫をして、見て触れて楽しめる行事にできたと思います。さらに二日目には特別講話「マンガ・アニメによるまちおこしについて」鹿沼はジブリの聖地？」を開催し、多くの方にご来場いただきました。講話では、前半でマンガ

特別講話

やアニメを活用したまちおこしを行っている全国の事例を紹介し、中でも最も成功したと言われるアニメ「ガールズ&パンツァー」の聖地である茨城県大洗町の事例を詳しく紹介しました。そして後半では昨年公開されたスタジオジブリの劇場アニメ「君たちはどう生きるか」の舞台のモデルになった場所が鹿沼であることを紹介しました。同映画の宮崎駿監督は、戦時中に鹿沼に疎開しており、その時に住んでいた場所が現在の御殿山病院が建っている場所にあった「山本松華園」という別荘だったのです。世界的に評価の高い宮崎監督の最新作の「聖地」が鹿沼だったという驚きの事実を知っていただくことができたことは、とても意義あることだったと思います。今後、これを鹿沼のまちおこしにどのように活用できるか、多くの方々と考えていければ幸いです。

令和6年度 ギャラリーフェスティバル写真部会

フォトクラブ「イチゴ一会」代表 浅見 清

今回、初めてギャラリーフェスティバル開催に際し、写真部会の会員5名は、それぞれ自慢の風景や花や祭りの写真を展示しました。更に、小説や俳句

後輩の方にご来場をいただき、思いがけず懐かしい青春時代が甦りました。また、コロナ禍後、初めて会員が1名増え感謝しております。今後、鹿沼市文化協会の一員として、毎回、文化祭の写真展に参加したいと思えます。

お知らせ

第7回いちごいちえ鹿沼川柳大会

●第1部 大会

(日時) 令和7年2月23日(日)

午前9時30分受付

(会場) かめまきホール(鹿沼市民文化センター)

大会議室

●第2部 全国誌上大会

(課題) 「丸」二句詠

(投句受付期間)

令和7年1月31日(金)

(消印有効)

(投句先)

〒322-0069

栃木県鹿沼市坂田山2丁目170番地

鹿沼市文化協会

「いちごいちえ鹿沼川柳大会」係

◆問い合わせ先

「かめまき柳会」 松本とまと

☎ 0289-6215700

FAX 0289-6215797



ギャラリーフェスティバル 写真部会

これぞ「視察研修」

視察研修推進委員会委員 松本 とまと

今年の鹿沼市文化協会視察研修旅行が、9月3日に実施された。

朝ドラ「虎に翼」に登場する、東京高等裁判所公開裁判傍聴（実際の法廷で行われる裁判を傍聴）と小石川植物園と神田明神参拝であった。居座った台風10号の影響で東京は雨予報、傘持参の出発に

なったが、前日より下がった気温には救われた。

まず東京高等裁判所では、毎日たくさんの法廷が開かれており、原則公開で誰でも傍聴できる。裁判所に到着すると、どこの法廷で何が審理されているのかを表示したリスト20件分が配布された。所

公職選挙法違反裁判を傍聴した。ニュースで知っていた江東区長選の買収工作の証人尋問だった。10時の開廷から11時半まで被告人への検察と弁護人から尋問の一部始終を目の当たりにした。まるでドラマの一場面そのものだった。集合ロビーに戻ると、他の裁判を傍聴した人たちも口々に「良かった」と言っている、今回のこの企画は好評だった。

持品検査のため、金属探知器のゲートを通り、3人ずつの班に分かれて、興味のある裁判を傍聴した。私は一番上に記載されていた、

昼食のあと、小石川植物園散策。多少の雨が降ったり止んだりしていたが、涼しくて良かった。初めて訪れた

が、身近に思えたのは、前回の朝ドラ「らんまん」を観ていた

からかも知れない。最後に、神田明神を参拝して帰路についた。参加者27名だった。



小石川植物園分類標本園



神田明神



ホテルグランドニッコーお台場

編集後記

昔から「暑さ寒さも彼岸まで」と言われてきましたが、10月半ばを過ぎても夏日が続き、気象庁観測史の記録を更新、地球の温暖化はこの先どうなっていくのか杞憂しつつ、秋色に染まる季節が待ち遠しくなります。

9月28日かぬまケールテレビホール（小ホール）にて、「第46回鹿沼市民文化祭開幕式」が開催されました。開場前には、鹿沼市茶華道協会茶道部会のご尽力により、好評の呈茶席が設けられ、沢山の方々が、心尽くしのお呈茶を、笑顔で頂いていらつしやいました。

開幕式典は、恒例のセレモニーが粛々と執り行われました。その後のアトラクションには「下司愉宇起うたのつどい」のタイトルのものと、会場一杯のご来場を頂き、下司愉宇起氏の素晴らしい歌と、軽妙なトークを交えた

楽しいステージに、会場も大いに盛り上がりました。また、下司氏にご指導を頂いている「かぬま童謡の会わべっこ」の皆さんも、手話を交えた歌を披露くださり、温かく和やかな歌声で心も癒され、楽しいひとときを過ごすことができました。

この日から12月15日までの期間、各部門の様々な催しがあり、鹿沼市のバラエティに富んだ文化活動が開催されます。興味のある部会がありましたら、お気軽に文化協会にご連絡ください。

これからも、鹿沼市文化協会の益々のご発展を、心よりご祈念いたしております。

寺崎 昌子

《編集委員会》

小林 夏江 板橋 和子
寺崎 昌子 斎藤千恵子
大貫 宗正